

神さまがくれた子は、神さまの責任



1990年、4人の子どもたち

その子によります。勉強が早い子はお昼で終わり。ゆっくりな子は、四時までやっています。下の子には私が教えますが、五年生くらいになれば、スケジュールを立ててあげれば、あとは自分でやつていきます。終わったら、私は目を通すだけです。

今のが理解できるようになつています。日本で言えば、「公文式」に似ているかな？ 私は居間で家事をして、子どもたちは勉強部屋に集まつてやつっています。

一何時まで勉強するのですか。

家族の人数が多いですからね。それと、私のホームスクールのやり方は、勉強をけつこうやらせて忙しくせるので、そういうことはありませんでした。

でしたか。

家族の人数が多いですからね。それと、私のホームスクールのやり方は、勉強をけつこうやらせて忙しくせるので、そういうことはありませんでした。

一最近は、日本でもホームスクーリングで子どもを育てているお母さん

がけっこいて、「なかなか楽なことではない」という声を聞きますが、どうでしょうか。

一マタニティー・ブルーにはなりませんでしたか。

全くなかったです。四回ほど流産しましたが、どれも十二週目とか十四週目などの早い時期でした。ですから、十四回、妊娠したことになりました。

一難産の時は、なかつたのですか。

全くなかったです。四回ほど流産しましたが、どれも十二週目とか十四週目などの早い時期でした。ですから、十四回、妊娠したことになりました。

ベネディクト夫婦

一ベネディクトト家では、初めから「大家族を作ろう」という気持ちではなかつたと聞きましたが。

そうですね。三人目が生まれた頃に、「神さまに全部お任せしよう」という確信が与えられて、そうし始めました。

十人のお子さんをお持ちのベッキー・ベネディクトさんにインタビューしました。ベッキーさんは、「ふたりのために」の著者ジョナサン・ベネディクト氏の夫人です。



<青い目が見た日本人シリーズ>

神さまがくれた子は、神さまの責任

ベッキー・ベネディクト

今回は、長野県信濃町にお住まいの十人のお子さんをお持ちのベッキー・ベネディクトさんにインタビューしました。ベッキーさんは、「ふたりのために」の著者ジョナサン・ベネディクト氏の夫人です。

つてしまふ。子どもたちもそれを知つていて、「ここまで来たら、お母さんが爆発するからやめたほうがない」と分かっています。

今朝も六時半頃に三人がすでに起きていて「ガラガラガラガラ」とすつき音を立てるのを目が覚めてしまつて、「あと10分は寝ていたいから、静かにしてなさい」と言つたら、三人ともじつと座つて動かなくなりました。

だから、十人産んだからといって、決して私は忍耐があるわけではないとした笑。

つづいて、「あと10分は寝ていたいから、静かにしてなさい」と言つたら、三